ジュニアミュージアム

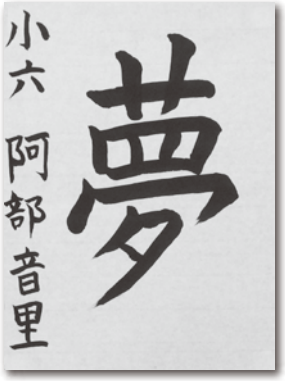
「ピッチャーになった」

皆野小3年　関口　碧斗（あおと）くん

「ピッチャーでいいよな。」
かんとくに言われて、ぼくは大きくガッツポーズをしてしまいました。そして、
「はい。」
と力強く返事をしました。ぼくは、四ケ月前の交流戦でピッチャーをやりました。ちがうチームのかんとくにブルペン投げを見てもらい、ピッチャーをやらせてもらいました。中つぎとして、試合に出ました。アウトがたくさんとれました。けれど、球はあれているし、ホームランもうたれてしまい、
「練習の時はできたのに！」
と、満足はできませんでした。
その後、お父さんと練習しました。
「よくなったな。」
いつもはきびしいお父さんにほめられて、すごくうれしかったです。

それから二ケ月後、初めてかんとくにブルペン投げを見てもらいました。
「いい球投げるな。」
と、言われたので、投球中にもかかわらず、投げるのをやめ、
「ありがとうございます。」
と、大きな返事をしました。すごくうれしかったです。けれど、ぼくはかんとくに、
「もっといい球を投げるためには、もっとひじを上げたほうがいいな。」
と、言われて、練習をがんばろうと思いました。ぼくは帰った後も、お父さんといっしょにピッチャーのかっこうのチェックをしたり、プロ野球、少年野球のピッチャーに関する本を読んだりしました。まさに言われたチューブトレーニングもかかしませんでした。そのころの練習がとてもきつかったことを思い出します。とくに冬の二十分間マラソンがつらく、二週間ぐらい足がいたくなったときもありました。
そして、さいきんまたブルペン投げをかんとくに見てもらいました。かんとくは、
「よし、ひじが上がってきた。だれに教えてもらったんだ？」
「お父さんです！」
「それは、よかったな。」
ぼくは、すごくすごくうれしかったです。その後、
「次の練習試合、ピッチャーができるぞ。」
かんとくに言われて本当にうれしかったです。
「はい。ありがとうございました。」
ぼくは元気な声で返事をしました。
野球が終わり、家に帰ると、お父さんに野球で言われたことや、やったことをすべて話しました。そしたら、お父さんが、
「練習のせいかが出たな。」
と、言ってくれました。
「これからも練習がんばるね。」
いつもきびしいお父さんにほめられてよくがんばったなと思いました。それから、すぐに練習をしました。今でも、ピッチャーでかつやくできるようにがんばっています。
（評）一生けんめいに練習したことが、様子がよくわかるように上手に書けています。碧斗くんの気持ちがよく伝わってきました。

皆野小6年　阿部　音里（ねり）さん



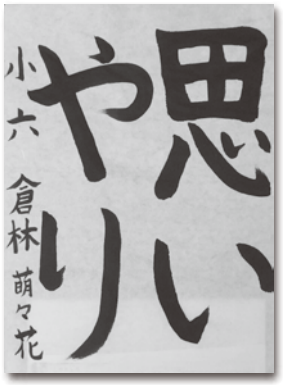
（評）文字のバランスに気をつけて、一画一画丁寧に書けました。名前もしっかり書けています。

「虫とともだちとあそんだよ」

金沢小1年　出牛　千愛（ちえ）さん

（評）カマキリとかわいいおともだちがとてもたのしそうです。大きくのびのびとかけましたね。

国神小6年　倉林　萌々花（ももか）さん



（評）点画のつながりに気をつけて、のびのびと書けました。

切り絵「東大寺大仏殿」

皆野中3年　中道　瞳（ひとみ）さん

〈本人のコメント〉
国宝である偉大な東大寺。それが繊細であることを細かく表現しました。